



http://www.shinshiyou.com

〒221-0055 横浜市神奈川区大野町1-25 横浜ポートサイドプレイス509 アネックス5F  
TEL.045(440)3210 FAX.045(440)3209

発行元/公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会 発行人/会長 木元 茂 編集人/神私幼総務部(広報室) 発行/年3回 発行部数/1700部

2022年8月9日(火)・10日(水) 第35回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会

「新しい時代を伸びやかに生きる」  
～未来に向かって子どもが主役の幼児教育を～

主催

一般財団法人私学研修福祉会  
一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構  
全日本私立幼稚園連合会

実施

全日本私立幼稚園連合会 関東地区会・神奈川県地区会  
公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

後援・特別協力

神奈川県・横浜市  
公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー



令和4年度

幼稚園教育経営研修会のご案内

日時 令和5年1月28日(土) 13:30~16:30(予定)  
開催方法 ハイブリッド開催  
対象 加盟園/設置者・園長ならび後継者、またはこれに準ずる者  
参加費 1名 5,000円  
研修内容 基調講演  
文部科学省初等中等教育局  
幼児教育課長 藤岡 謙 一様  
「幼児教育のこれから(仮)」  
特別講演  
慶應義塾大学 総合政策学部  
教授 中室 牧子 様  
「教育に科学的根拠を」



主催/一般財団法人神奈川県私立学校教育振興会  
実施/公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会

INDEX

- 2・3 第35回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会  
「新しい時代を伸びやかに生きる」  
～未来に向かって子どもが主役の幼児教育を～  
幼児教育無償化の効果 ●(公社)神奈川県私立幼稚園連合会 会長 木元 茂
- 4・5 令和5年度予算要望の概要について  
「経常費補助金を含む補助率増加に向けて」  
研修事業部・研究部 活動報告
- 6・7 特別支援教育研修会兼10年経験者研修会/研究特別委員会A部会  
法律相談/教育相談  
研修会報告
- 8・9 第37回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会  
第36回関東地区代表者協議会・新潟大会  
令和4年 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会
- 10・11 こどもの心に響くことば掛け ●このは語り 木村 まさ子氏  
ケンタガーデン/絵本贈呈のお知らせ  
新規加盟園情報/新規賛助会員紹介/賛助会員プレゼンテーション
- 12 Pride of KANAGAWA/令和4年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数

フォーラム一覧 一般フォーラム 特別フォーラム

Forum1	Forum2	Forum3
<b>担当 県：埼玉</b> 愛されて育つ子供 <b>互いに育ち合うインクルーシブ教育の在り方とクラス集団の育ち</b> 外部ゲスト 宮崎 豊 (玉川大学教授)	<b>担当 県：群馬</b> 子供と共に育つ保育者 <b>子ども理解を深めるための同僚性のあり方</b> 外部ゲスト 大方美香 (大阪総合保育大学学長)	<b>担当 県：神奈川</b> 教育・保育理論 <b>発達の連続性を踏まえた子どもの育ちを考える</b> 外部ゲスト 佐藤康富 (東京家政大学短期大学部教授) 内部ゲスト 今井恵子 (認定こども園かもいようちえん理事長・園長)
<b>担当 県：栃木</b> 子供理解 <b>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)を踏まえた保育実践</b> 外部ゲスト 高根沢 伸友 (栃木県幼児教育センター副主幹)	<b>担当 県：山梨</b> 子供理解 <b>子供の発達の理解と保育実践</b> 外部ゲスト 秋山麻実 (山梨大学教授)	<b>担当 県：千葉</b> 保育実践 <b>園行事の取り組みと子どもの育ち</b> 外部ゲスト 太田光洋 (長野県立大学教授)
<b>担当 県：新潟</b> 保育実践 <b>子どもの主体的な活動、共に作り出す遊びが充実するための環境づくりと援助</b> 外部ゲスト 白井 智佳子 (新潟中央短期大学准教授)	<b>担当 県：茨城</b> 子供が育つ家庭や地域 <b>子供が育つ家庭や地域</b> 外部ゲスト 菊地一晴 (聖徳大学教育学部 児童学科専任講師)	<b>担当 県：神奈川</b> 乳児保育 <b>乳児期の遊びをとおして、幼児を理解するまなざしへ</b> 講師 井桁容子 (非営利団体ドドモノミカタ代表理事、乳幼児教育実践研究者)
<b>担当 県：神奈川</b> 園長・設置者向け <b>令和の時代の私立幼稚園のありかた</b> 講師 大杉住子 (文部科学省初等中等教育局幼児教育課長) 交流プログラム 田澤里喜 (玉川大学教育学部教育学科教授) 井上 眞理子 (洗足こども短期大学幼児教育保育科教授)	<b>担当 県：神奈川</b> 実技(絵画造形) <b>描画の活動を楽しく</b> 講師 石井秀卓 (学校法人大船いしい学園 ひがし幼稚園理事長・園長)	<b>担当 県：神奈川</b> 講演・シンポジウム <b>Sustainableな社会の担い手を育む教育を…。～SDGs時代の保育を考える～</b> 講演 加藤繁美 (山梨大学名誉教授) シンポジウム コーディネーター 若月芳浩 (パネリスト 北野幸子・大豆生田啓友・小西貴士)
<b>担当 県：神奈川</b> ECEQ® <b>公開保育 さくらい幼稚園</b> メインコーディネーター 後藤光葉 (西鎌倉幼稚園園長) サブコーディネーター 櫻井つた江 (聖母幼稚園園長) 安藤広子 (認定こども園森が丘幼稚園園長)	<b>担当 県：神奈川</b> 教養文化講座 <b>神奈川の魅力、ヨットセーリングのワークショップを通して海、波、風等の自然環境に触れ、保育者としての資質を向上する！</b> 講師 小岩井 敏男 (逗子開成高校ヨット部OB会長、葉山町セーリング協会副理事長)	<b>担当 県：神奈川</b> 教養文化講座 <b>湘南最後の酒造蔵にまなぶ ～地域と人と育む文化と保育環境～</b> 講師 熊澤茂吉 (熊澤酒造株式会社代表取締役) 関山隆一 (NPO法人もあなキッズ自然療法理事長)

# 関東地区教員研修神奈川大会を終えて 力を合わせて開催した大会を振り返る

実行委員長 小澤俊通

8月の大会開催から、数か月が過ぎました。時の過ぎ行く速さに戸惑うとともに、過去の出来事として、思い出の一つになろうとしています。

神奈川県連としては、なんと10年ぶりの大会開催でありました。前回の開催は2012年、渡邊真一会長の下での大会でした。パシフィコ横浜国立大ホールを埋め尽くした参加者に感激したことを思い出します。当時を知る先生方にとっては、懐かしくもあり、思い出深い大会でありました。

今回の大会は、開催年度の設定から苦労がついて回りました。2018年の関東地区団体長及び理事会において、2020年に開催するべき大会の一年延期をご承認頂きました。2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」開催に伴う宿泊や会場確保の困難さを避けることが理由でありました。

しかし、2020年に入り新型コロナウイルスの感染が蔓延し、その後「緊急事態宣言」の発令や「東京オリンピック・パラリンピック」の一年延期が決まり、この大会も更に一年間の延期を余儀なくされました。大会メイン会場としていた「パシフィコ横浜ノース」も予約を延期し、2022年の大会開催を目指すこととなりました。

この間、主催者である「関東地区会」の団体長や理事の先生方には、何度となく説明を繰り返し、その都度すべての先生方から「神奈川の考え方や方針を支持する」との力強い言葉を頂いてきました。日頃から交流を深めていた先生方ではありましたが、それぞれの団体を背負い、責任ある判断を求められている中で、変わらぬ応援の言葉は大変有り難く、大きな後押しとなりました。

2022年を迎え、大会案内事項も出来上がりしました。実行委員会も何度となく開催され、当然の如く、横浜の地に多くの参加者を迎えるつもりでありました。昨秋から年末にかけてはコロナの感染も落ち着きを取り戻し、対面での開催に期待を膨らませておりました。それでも年が

明けるとコロナの感染が増え始め、対面開催に暗雲が漂い始めたのは、ご承知の通りです。コロナの感染状況の先行きは、誰にも見通すことが出来ません。それでも私は対面開催を目指すと発言してまいりました。

4月の実行委員会は、まさに大会の開催方法を定める場となりました。4月下旬には、関東地区の会議が予定されており、万一「オンライン開催」とするならば、万全の準備を進めるためのタイムリミットでありました。全ての実行委員からの発言を求め、考え方を整理し、最終的に「オンライン開催」を決定致しました。

まさに苦渋の決断でありました。

関東地区の理事会の数日前に、全日の常任理事会があり、この考えを他の7県の団体長に伝え、ご検討をお願い致しました。ここでも「基本的に神奈川の方針を支持することに変わりはない」との言葉を頂き、後日開催の関東地区理事会において、大会の「オンライン開催」をご承認頂きました。

ここから、大会開催は全てオンラインに切り替えることになり、準備を加速することが出来ました。県連の若手の先生方の中には、ITにたけているメンバーがおり、ITチームとして大きな力を発揮してくれました。

**2022(令和4)年8月9日(火)・10日(水)**

**全体会(1日目)**  
 オンライン/パシフィコ横浜 会議センター  
 13:30～ 開会式  
 14:30～ 基調講演(黒川伊保子先生)  
 16:15～ アトラクション(劇団かかし座)

**フォーラム(2日目)**  
 オンライン・ハイブリッド・対面/パシフィコ横浜 会議センター  
 9:30～ フォーラム  
 16:00 閉会

**ほいくの宝箱**  
 2022年8月9日(9:30)～8月24日(23:59)  
 公開場所 特設ホームページにて各出展園が作成した動画を掲載



## 第35回 全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会 「新しい時代を伸びやかに生きる」 ～未来に向かって 子どもが主役の幼児教育を～

## 関東地区教員研修神奈川大会を振り返って

実行委員長代理 岩本 勉

令和4年8月9・10日に実施されました関東地区教員研修神奈川大会につきましてご報告いたします。

前回の山梨大会から2年間の空白を経て、今年、神奈川県連が担当となり、研修大会が開催されました。当初の企画ではパシフィコ横浜をメイン会場にすべて対面式で行う予定でしたが、コロナウイルスの感染が止まず、対面型研修、オンライン研修の二つのプランを並行して準備を進めていかなければなりませんでした。4月に入って、次の感染拡大のピークが予測できず、対面型での開催は困難という苦渋の決定をしました。

大会実行委員会でも様々な意見を頂きましたが、最終的には「神奈川ならではのオンライン開催」を実現しようということになり、オンラインでの研修を軸に、園長・設置者研修はハイブリッド型、公開保育、教養文化講座は対面式で行うことになりました。7月に入り、コロナ感染が急拡大し、第7波の到来となりました。そうした状況にも関わらず、関東地区、県内の先生方のご協力により1700名弱の参加登録をして頂きました。ほとんどの参加者が幼稚園や自宅で研修を受けることになるため、通信環境の構築に万全を期し、準備を進めていきました。

大会初日は岩崎学園の教室をお借りして、開会式、基調講演、アトラクションをオンライン配信しました。開会式では事前にビデオ撮りした黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長、田中雅道全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶を配信し、会場からは角谷正雄関東地区会会長、木元茂神奈川県連会長の挨拶を頂きました。

記念講演はトリセツシリーズでベストセラー作家となった黒川伊保子先生が「感性コミュニケーション」というテーマで、「とっさの時に使う脳神経回路の初期設定の差異」によって生じるコミュニケーションの課題について易しく丁寧にお話さ

りして、開会式、基調講演、アトラクションをオンライン配信しました。開会式では事前にビデオ撮りした黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長、田中雅道全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶を配信し、会場からは角谷正雄関東地区会会長、木元茂神奈川県連会長の挨拶を頂きました。

記念講演はトリセツシリーズでベストセラー作家となった黒川伊保子先生が「感性コミュニケーション」というテーマで、「とっさの時に使う脳神経回路の初期設定の差異」によって生じるコミュニケーションの課題について易しく丁寧にお話さ

りして、開会式、基調講演、アトラクションをオンライン配信しました。開会式では事前にビデオ撮りした黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長、田中雅道全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶を配信し、会場からは角谷正雄関東地区会会長、木元茂神奈川県連会長の挨拶を頂きました。

記念講演はトリセツシリーズでベストセラー作家となった黒川伊保子先生が「感性コミュニケーション」というテーマで、「とっさの時に使う脳神経回路の初期設定の差異」によって生じるコミュニケーションの課題について易しく丁寧にお話さ

りして、開会式、基調講演、アトラクションをオンライン配信しました。開会式では事前にビデオ撮りした黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長、田中雅道全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶を配信し、会場からは角谷正雄関東地区会会長、木元茂神奈川県連会長の挨拶を頂きました。

記念講演はトリセツシリーズでベストセラー作家となった黒川伊保子先生が「感性コミュニケーション」というテーマで、「とっさの時に使う脳神経回路の初期設定の差異」によって生じるコミュニケーションの課題について易しく丁寧にお話さ

りして、開会式、基調講演、アトラクションをオンライン配信しました。開会式では事前にビデオ撮りした黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長、田中雅道全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶を配信し、会場からは角谷正雄関東地区会会長、木元茂神奈川県連会長の挨拶を頂きました。

記念講演はトリセツシリーズでベストセラー作家となった黒川伊保子先生が「感性コミュニケーション」というテーマで、「とっさの時に使う脳神経回路の初期設定の差異」によって生じるコミュニケーションの課題について易しく丁寧にお話さ

# 幼児教育無償化の効果



公益社団法人  
神奈川県私立幼稚園連合会  
会長 木元 茂

これまで多くの先生方と協力して準備してきました「第35回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修神奈川大会」が無事に終了しました。詳細報告は他の執筆者にお譲りしますが、運営方針の大転換をタイムリーに実施できたのが功を奏したと言っても過言ではないでしょう。小澤俊通実行委員長と若本勉実行委員長代理の決断力と、事務局の粘り強い対応力に心から感謝申し上げます。

9月に静岡県で3歳の女児が通園バスの車内に取り残されて死亡した事件を受け、政府は来年4月から送迎バスの安全装置の設置を義務付けることを検討していて、間もなくガイドラインが示される予定です。（検討委員会には全日からも副会長が参加しています。）各園におかれましても、通園バスの運営についてあらためて点検・見直しをされていると思いますが、ハードウェアである安全装置と、人間がかかわる部分でのヒューマンエラーを防止する仕組みなどが組み合わさって、「安全」が担保されることとなります。県連といたしましても、「安全装置取り付けに関する補助」「安全確保のための職員配置の充実」に向けて、継続的に支援を頂くよう施策の要望について検討していきたいと考えています。

さて、恒例になっ

ている「教育経営研修会」は1月28日(土)に開催の予定です。本年度の講師は、前半は文部科学省の藤岡謙一幼児教育課長、後半は慶応義塾大学の中室牧子教授(慶應義塾大卒、コロンビア大博士。専門は教育経済学。日銀などを経て現職)です。以前拝見した中室教授のコラムにおいて「親の経済状況、学歴や資格」「親の子どもに対する時間の投資」「親の長時間労働」などが「教育格差」の原因として考えられるが、それらに対して具体的な政策が導入されても、目立った効果や影響はない。一方、「親が子どもと一緒に過ごす限られた時間の質を高めるためのヒント」について語られているパンフレットを配ってみたい国では、「親が子どもと過ごす時間の質を高めることで、子どもたちの読み書き能力の全体的な底上げに成功した」だけでなく、教育格差の縮小にも成功した」と書かれていました。現在、多くの園児の保護者の方が仕事をしながら子育てをしています。限られた時間の中でも親子のかかわり方の工夫が、子どもの学ぶ力を向上させるということを、私たち園長・設置者が語りかける必要があります。

幼児教育・保育の無償化が実施された結果、今後は「幼児教育の質の評価」は避けて通ることはできません。保育所のような第三者評価とは異なる「私学の個性が尊重される学校評価」について、加盟園の皆さんが注目し真剣に考えていかないとはい

けない時期になってきました。今後は国が税金から拠出している幼児教育の無償化が、「教育政策」として効果があったと評価してもらい必要があります。そのためには、私たち幼稚園・認定こども園の設置者が、諸外国の政府や日本政府が「教育」についてどのように考えているかを知ること、考えることは重要なことだと思います。ぜひ、多くの先生方に「教育経営研修会」に参加していただきたいと思っています。

今年勃発したウクライナでの戦争は、私たちの日常生活にも影響を与えています。ウクライナからの避難民を30万人も受入れたウクライナの西隣のモルドバ共和国ナタリア・ガブリリツァ首相は、このように言っています。

「私たちは、生まれる家族を選ぶことはできないし、生まれてくる国も選べません。でも、自分の周りに対してポジティブな影響を与えられるような人生を選ぶことはできます。どこに生まれようとも自分の可能性を発揮できるような世界を目指すことが大切です」

## 令和5年度予算要望の概要について「経常費補助金を含む補助率増加に向けて」

振興部長 仁藤 一成

幼稚園並びに認定こども園を取り巻く社会環境が大きく変容を遂げ、加盟園の皆様も大変ご苦労されていることとご察し申し上げます。特にこれから、コロナ禍における出生減が園経営に影響を落とすと予想されます。さらに、円安その他の経済情勢による物価高で先行きが見通せない状況ですが、政府による物価高対策の補助、市町村においても同様の補助を検討・実施の動きがあり、唯一の救いと思っています。



その様な中、昨年7月福岡の保育所、本年9月静岡の幼保連携型認定こども園でのバス置き去り事故がありました。それを受け、政府では調

査等を行い、来年4月から全ての幼稚園・保育所等の送迎バスに安全装置の設置・メンテナンスを義務づけ、違反した施設は業務停止命令など罰則の対象、設置費用に關して認定こども園・保育所は9割補助検討と報道がなされました。都市部で安全なバス送迎を主に行っているのは幼稚園・認定こども園であり、装置の義務化と補助の拡充は表裏一体と考えます。子どもを教育する全ての幼稚園・子ども園に同率の補助率を行政に対し要望して行きたいと思っています。同様に昨年度より政府が実施している、処遇改善事業(教育支援体制整備事業費交付金)に關しても、認定こども園・保育所は全額、私学助成園は本年末まで1/4園負担、来年1月から

3月まで1/3園負担、一〇二条園(附則六条園)は補助が無い状況です。同じ子どもに關わる業務をしている教職員に直接支払われる補助なので、施設類型に關わらず、同等の取り扱いを要望しています。さて、振興部活動として重要な予算要望ですが、コロナ禍で少人数とのことで、木元会長はじめ副会長、田野岡教育振興連盟会長長と行つて参りました。本年は参議院議員選挙が7月にある関係で、一部日程が前倒しとなり、6月8日自民党、7月22日公明党、7月28日立憲民主党、8月8日県政会と神奈川県福祉子どもみらい局へ要望を提出。経常費補助金(一般補助)は本年度200,158円となりましたが、他都道府県や他校種

に比べまだまだ低い金額です。学校運営の基幹となる重要な補助金であるので、更なる単価の増額措置、新規として、教育支援体制整備事業の拡充を要望しました。特別支援教育費補助は、1名からの国庫単価と同額、アレルギー疾患児への加算措置、新規としては、提出書類・事務の簡素化、緊急環境整備費補助を利用しやすい運用への変更、新型コロナウイルス感染症対策で検査キット、IT関連整備費、新規では、感染代用教員雇用補助、人材確保及び質の向上で就職セミナー等、新規として、免許状更新制度廃止後の新たな研修への支援を要望しました。ここ数カ月で要望作成時に思っていた事柄より、大きく社会情勢が変化しており、引き続き行政に対し働き掛けを行って行きたいと思っています。

### 令和5年度の神奈川県予算に対する要望内容

#### 1 経常費補助金(一般補助)の充実

- ◇令和4年度の園児一人当たりの補助額は、国の基準単価額を上回ったものの、他の都道府県や他行種に比べるとかなり低いことから、教育の質の向上、安定的な人材確保、教職員の処遇改善に向け、更なる単価の増額。
- ◇在職年数の長い教員への加算の更なる拡充(6年以上)。

#### ◇令和4年2月から開始された幼稚園教諭等の処遇改善の取組の継続と、幼稚園負担をゼロにするための県単独の上乗せ補助。【新規】

- ◇第一種教員免許有資格者への加算と、退職後に再就職した教員の職歴を通算年数として認める加算要件の拡充。
- ◇宗教法人立や個人立の園に対する運営費補助金。

#### 2 経常費補助金(特別補助)の充実

- ①特別支援教育費補助
  - ◇対象児1名から784,000円の補助。
  - ◇補助基準を見直し、『発達障害の疑い』の園児や『療育センターの判定書』等も可とする。
  - ◇重度のアレルギー疾患のある園児に対する加算。
  - ◇補助金の支給基準日を5月1日に限定せず、満3歳児の年度途中での受け入れにも対応できる基準日の増設。
- ②預かり保育推進費
  - ◇無償化に伴い利用も増加傾向にある中、待機児童対策に大きな役割を果たしている預かり保育実施園への人材確保や財政支援に係る補助金の更なる増額。
  - ◇預かり保育を利用するアレルギーや特別支援を必要とする子どもへの加算。
- ③地域開放推進費
  - ◇地域社会のコミュニティにおける子育て拠点となっている幼稚園への地域開放推進費の充実。
- ④緊急環境整備費
  - ◇学校法人立幼稚園への補助率(現在は3分の1)を認定こども園と同様の2分の1へ増額するとともに、速やかに告示し圧縮は行わない。
  - ◇園舎建物に付随するものや修繕にも利用できるよう事業内容を拡充・見直す。

#### 3 新型コロナウイルス感染対策

- ①保健衛生用品などの配給や購入補助
  - ◇スピード感のある保健衛生用品などの配給・購入補助の対応。
- ②オンラインシステムの導入
  - ◇緊急事態時などにオンラインによる保育の提供ができるシステム構築のための助成。
- ③新型コロナウイルス感染職員の補充等への補助【新規】
  - ◇保育教諭が新型コロナウイルスに感染しても、子どもの安全を確保し保育を継続できるよう、予備の保育教諭雇用に対する補助。

#### 4 人材確保及び質の向上

- ①県内各地域のニーズに対応した「就職セミナー」の開催などの人材確保支援策の継続。
- ②就労支援補助金や家賃補助など、就職する幼稚園教諭へのインセンティブの充実。
- ③保育士等修学資金貸付制度は預かり保育を実施する幼稚園への就職者にも適用されることを、県や市町村の案内資料に明記。
- ④幼児教育の質の向上と優秀な教員の確保のために大学等との連携によるインターンシップや教員実習生受け入れ事業への助成。

#### 5 免許状更新制度廃止後の新たな研修への支援【新規】

免許状更新制度廃止後に必要とされている「個別最適な学び」や「現場の経験を重視した学び」を進めるため、教員研修をオンデマンド教材化するための助成。

研修事業部・研究部 活動報告

特別支援教育研修会兼10年経験者研修会

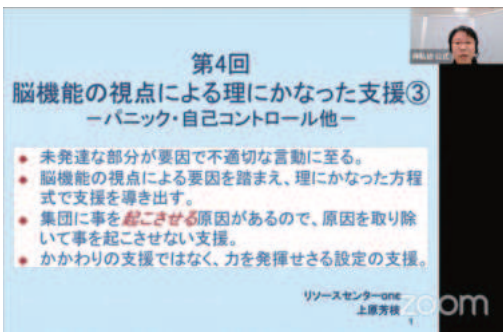
生まれた時から叱られたい子・失敗したい子はいない

特別支援教育研修会は、昨年度は毎回200名超の参加者を集めるニーズの高い研修でしたので、引き続き発達支援機関リソースセンターOne代表理事で臨床発達心理士の上原芳枝先生を講師に招き、全6回シリーズで企画しました。

特別支援に関する研修は個別支援の話が中心になりがちですが、上原先生は周囲の環境と支援の必要な子との関係性を中心にお話をしてくださいました。このため、集団を相手にする幼稚園の先生にとって大変に参考になる研修です。

本研修は初回に基礎的な知識を学び、2回目以降に具体的な対処へと話が進んでいきます。また、一般的な支援の講座は、たくさん事例を通してたくさん支援の方法を教えてくれますが、本講座は方法ではなく、子ども達が何故そのよう行動をするのかという要因特定をすることを大切にしています。

と、方法をたくさん知っていても、その要因を想定できないければ、その方法は意味のないものになります。本講座はその要因を考慮する必要があるため、南大野幼稚園(文責/土井敬喜)



参加者の声

参加者のアンケートより抜粋してあります。今後、参加するためのご参考にいただければ幸いです。

今までのセオリー的な事が根底から覆され、驚きと共に、確かにと共感し思い返すことが多々ありました。絵カードやスケジュールの可視化は、確かにそれが通じる子もいるでしょうが、私の場合はあまりそれがピッタリくる子がいなかったです。私自身少し立ち止まって考える必要があったと感じました。



今年で上原先生の研修は3年目になります。何度聞いても難しいというのが本音です。日々の保育に追われるだけでなく、何人もいるお子さん一人ひとりにとっての意識のカプセルを考えて、少しずつでも支援がスムーズにできるようになりたいと日々葛藤しております。また6月も楽しみにしています。いつもありがとうございます。



きちんとやりたくてもできない事情がある。自ら前に進もうとする姿勢を育てるために、今の自分に何が出来るのか。まずは脳機能についてしっかりと知識を身につけて分析できるようになり、個別指導計画が立案できるよう今後もしっかりと学んでいきたいと思いました。



今まで色々な研修を受けたり、手探りでおこなってきたことを改めて見直す機会となりました。特にクールダウンの時間は大事だと思っていましたが、それは支援の失敗(の事後処理)だと教えていただき、ぐさぐさくるものがありました。



研究特別委員会A部会

オンライン研修から対面での研修活動を再開

今年度のA部会は、参加者の先生方の資質向上を目指し、3年ぶりに対面での研修を行っています。昨年度までの2年間はオンライン研修を実施していたため、今年度参加する先生方にとりましては、久しぶりに対面での参加者同士の語り合い、学び合いに期待をして申し込みをされたのではないかと思います。そのため、今年度のA部会の方向性について、改めて講師である東京家政大学短期大学部教授の佐藤康富先生と事前打ち合わせを行いました。その際

- ①参加者が対面で語り合うことで得られる学びを最大限生かす
②子どもに寄り添うことで、子どもの良さや保育の面白さを語り合う学びの場にする

以上2点を参加者に対して頂ける研修に設定しました。また、子どもについてプラスの視点をもって語ることは、子どもをエンパワーメントするだけでなく、参加者の職場・園文化を育むことにもつながります。そのため、参加者だけでなく、参加者の所属する園全体にもプラスの効果が生まれることも視野に入れて研修を行っています。

こうした事前打ち合わせを通して、今年度のテーマは「子ども達の語り合い」としました。参加者の皆様と意見を交わしながら、語り合う個々の子どもの思いを探り子どもも理



解を深めることは、保育の質の向上につながるヒントを見つけられると考えています。1回目は久しぶりの対面研修ということもあり、最初にアイスブレイキングを行い、参加者同士の緊張感を取り払うことに時間をかけました。場の雰囲気も温まったところで、事前課題「自園で子どもたちの語り合いが生まれた場面の写真」を基にグループに分かれて語り合いました。その後の発表では、「言葉を発表する形だけでなく、同じ経験を共にすることも豊かな語り合いといえる」「保育者が入りすぎずに、子どもと同じ目線で対象を見ると、子どもの語り合いの思いがなんとなく理解できる」等の意見が出ました。保育者と子どもが対峙するのではなく、同じ目線で物事を見ると、見方が変わる面白さを感じて、1回目は終了としました。6月に行った2回目は、事前課題「子どもの心が動いた瞬間」について、語り合いました。具体的には、まずは各自で用意した写真を持ち寄り、その状況を話し、他の参加者同士で伝え合いました。その後、子どもの心が動いた瞬間に寄り添うことを狙いとし、WEB図を作成しながらその瞬間の可能性や、予測などを考えながら書き出していききました。その後、WEB図も他の参加者と見せ合い、語り合いを行いました。最後に、WEB図を基に、各

最後に、WEB図を基に、各

自で今後の保育の発展や環境設定、子どもとの関わりなどを改めて考えてもらい終了となりました。

9月に行った3回目は、「保育の中、子どもの姿で面白かったこと」や「保育の遊び・活動での課題」を書き出し、グループで話し合いました。その後、佐藤先生より、子どもたちが意欲を持って、創造的になって生活していくことの大切さについての話がありました。その後「関わる対象」や「子どもの発達や内面・枠組みの変化(考え方・感情)」や保育者の「援助、遊びの増殖・変異」など子どもを取り巻く環境・状況や年齢の発達や一人ひとりの発達について参加者同士で考えました。その後の佐藤先生の講評では、やらせようとするのではなく、その子の姿に寄り添い、一人ひとりに応じて柔軟に考え、基本的信頼感を築き上げていくことの重要性についての話がありました。最後に「保育の遊び・活動での課題」を改善するための方策を参加者同士でグループディスカッションを行いました。

次回(10月17日)は、大和市にある学校法人かつみ学園大和山王幼稚園に伺い、参加者を限定した公開保育を実施する予定です。コロナ禍において、直接伺う公開保育を行うことのリスクや準備など、多くの障壁がありました。そうした状況下でも快く引き受けてくださった大和山王幼稚園の小倉園長先生、副園長先生、現場の先生方にはこの場をお借りして改めて感謝申し上げます。この公開保育を通じて、参加者にとって深い学びにつながるようにA部会を進めていきたいと思います。(文責/研究部員 難波忠弘)

法律相談



R&G横浜法律事務所

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい4丁目4番2号 横浜ブルーアベニュー2階

TEL.045-671-9654

県連窓口担当 西村将樹 弁護士

カスタマーハラスメント

厚労省は、顧客等からの著しい迷惑行為、いわゆるカスタハラ防止対策の一環としてマニュアルや周知・啓発ポスター等を作成しており、本格的なカスタハラ対策を講じる企業・団

体も徐々に増加しています。

カスタハラとは「顧客等からのクレーム・言動のうち、当該クレーム・言動の要求の内容の妥当性に照らして、当該要求を実現するための手段・態様が社会通念上不相当なものである」と定義されるもので、対策の主目的は組織の防衛ということになります。業務において顧客等の納得を得ることが非常に重要であることは間違いありませんが、カスタハラ対策のゴールを顧客等の納得と考えると際限ない対応を強いられることにもなりますので注意が必要です。

教育相談



相談の申し込み

電話・ホームページから事務局へ申し込みください。

TEL.045-440-3210

http://www.shinshiyou.com

教育相談員 鈴木敦子先生 (臨床発達心理士)



FIREってごぞんじですか?

火事ではありません。経済的自立と早期退職(Financial Independence, Retire Early)を指す単語だそうです。これは「早期退職して、お金のためにへとへとになるまで働く縛

りから自分を解放する」というライフプランです。基本は年間支出の25倍を貯蓄しそれを投資して暮らしていくといえます。持ち家や車へのあこがれはなく貴重な時間で好きなことをする。2000年代に社会人になる世代(ミレニアム世代)ではブームだそうです。テレビ番組で20代、30代の男性が登場していました。これは地殻変動的な意識変化ではないでしょうか。上の世代では考えられないことです。「立派な大人になる」って何でしょうか。二人は楽しんでいましたが生活は質素で結婚は諦めていました。今の子ども達にはこのような選択肢もあるわけです。

研究会報告		■ 研究部主催	■ 研修事業部主催	参加者数	
開催日	研修名	会場	講師	テーマ	
6/29(水)	特別支援教育研修会兼10年経験者研修会 第2回	オンライン研修(ZOOM使用)	特定非営利活動法人発達支援機関 リソースセンターone 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生	「脳機能の視点による理にかなった支援① ー感覚過敏・情報処理の問題ー」	160名
7/ 5(火)	新規採用教員研修会 第2回	オンライン研修(ZOOM使用)	株式会社クロスライフパートナーズ 代表取締役 雑賀 竜一 氏	「社会人として大切な心構え ～仕事へのスタンスで人生が変わる～」	123名
7/13(水)	若手後継者のための保育勉強会 第2回	オンライン研修(ZOOM使用)	講師：和洋女子大学こども発達学科 矢藤 誠慈郎 先生 コーディネーター： 四季の森幼稚園園長・玉川大学教授 若月 芳浩 先生	「保育の質向上のために必要なミドルリーダーの役割と醸成」	19名
8/ 5(金)	新規採用教員研修会 第4回	オンライン研修(ZOOM使用)	文京学院大学人間学部児童発達学科教授 朴 淳香 先生	「発達を支える身体表現 ～絵本の世界で動いてみよう～」	130名
			湘南鎌倉総合病院小児科部長 三宅 隆太 先生	「食物アレルギーについて アナフィラキシーを起こしたら」	130名
			中部大学現代教育学部幼児学科非常勤講師 安井 素子 先生	「どんな絵本が好きですか？」	130名
			保育の安全研究・教育センター代表 掛札 逸美 先生	「安全のための園内コミュニケーション」	131名
9/10(土)	若手後継者のための保育勉強会 第3回	外部研修 社会福祉法人翔の会 ーたん保育園	講師： 四季の森幼稚園園長・玉川大学教授 若月 芳浩 先生	「医療的ケア児の保育実施における課題と意義」	11名
9/14(水)	特別支援教育研修会兼10年経験者研修会 第3回	オンライン研修(ZOOM使用)	特定非営利活動法人発達支援機関 リソースセンターone 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生	「脳機能の視点による理にかなった支援② ー環境刺激の処理困難ー」	190名
9/21(水)	中堅教諭対象講習会 第1回	かながわ ようちえん会館	和泉短期大学講師・子どもの育ちのためのアートラボ共同代表 山崎 優 先生	【講義】「楽しいだけでいいのかな？」 ・幼児期における造形活動の目的 【実践】●描画①「自分で色をつくる」	38名
10/19(水)	新規採用教員研修会 第4回	県立スポーツセンター	元玉川大学TAPセンター 白山 明秀 先生	「より良い学級づくりのために」	95名
10/26(水)	特別支援教育研修会兼10年経験者研修会 第4回	オンライン研修(ZOOM使用)	特定非営利活動法人発達支援機関 リソースセンターone 代表理事 臨床発達心理士 上原 芳枝 先生	「脳機能の視点による理にかなった支援③ ーパニック・自己コントロール関連他ー」	216名
10/28(金)	中堅教諭対象講習会 第2回	かながわ ようちえん会館	和泉短期大学講師・子どもの育ちのためのアートラボ共同代表 山崎 優 先生	【講義】「最初から、思ったことを思ったようにはできない。」 ・手と道具の関係・段取りができる力 【実践】●工作と造形①「どうぶつをモチーフに」	40名
11/8(火)	乳児保育セミナー	オンライン研修(ZOOM使用)	非営利団体コドモノミカタ代表理事 乳幼児教育実践研究家 井桁 容子 先生	今、乳児保育が重要な訳 ～保育者に求められる専門性とは～	42名
11/16(水)	中堅教諭対象講習会 第3回	かながわ ようちえん会館	和泉短期大学講師・子どもの育ちのためのアートラボ共同代表 山崎 優 先生	【講義】「感覚だけで、表現はできない。」 ・表現と言葉の関係・必要なことがわかる力・創造性とは 【実践】●描画②「見て、描く活動」 ●工作と造形②「自分で考えてつくる活動」	36名
11/17(木)	若手後継者のための保育勉強会 第4回	オンライン研修(ZOOM使用)	講師：元お茶の水女子大学発達教育科学研究所 協力研究員、元子どもと保育総合研究職員 矢藤 誠慈郎 先生 コーディネーター： 四季の森幼稚園園長・玉川大学教授 若月 芳浩 先生	「幼稚園・認定こども園のICT化」	27名
11/22(火)	乳児保育セミナー	オンライン研修(ZOOM使用)	非営利団体コドモノミカタ代表理事 乳幼児教育実践研究家 井桁 容子 先生	「乳児保育における環境構成」	54名
11/29(火)				未定	60名(予定)



## 「第37回全日本私立幼稚園連合会 設置者・園長全国研修大会」 すべての子どもの幼児教育の充実・発展を考える

研修大会は、10月24日全体会・25日分科会と2日にわたって長崎で行われました。

全体会では冒頭の田中雅道連合会会長からの「少子化のすすむ社会において、子どもたちに何かが必要か、適切な教育を受ける環境とサポートが大切である。そのためどうしたら良いか考えるきっかけとなる

研修大会にしたい」という力強い言葉に感動しました。

さらに奥田修史氏(長崎・学校法人奥田学園理事長)による記念講演では、どん底から学校と子どもたちを立ち直らせた事例を熱く語りながら、相手を動かしていくために大切なことは「何かできる力」「相手をよく理解する」ことが原動力になる、という力強いメッセージをいただきました。子どもたちも先生たちもやる気になってや

副会長 樽木陽子

りがいを感じる園にしていくなめには、経営者・管理者が強い信念と考える力を持つて進めることが大切だと思いました。その流れで文科省の方の幼児教育政策についての説明も気持ちが入った報告でした。バスの事故があったことを受けて、主に安全管理についての注意やこれからの行政の動きについての説明がありました。また、幼保小接続について取り組み、こども家庭庁の役割についての説明がされました。基調講演については、少子化の解消に向けて何が必要かということ、働き方改

## 「第36回関東地区代表者協議会・新潟大会」 なぜ今、主体的・対話的で深い学びが必要なのか



新潟大会が令和4年11月9日・10日と2日間にわたり新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟にて開催されました。

3年ぶりの対面開催でした。関東各県の代表者の先生方との意見交換、ならびに行政報告から多くの学びと気づきを得る機会となりました。他県の情報に触れる中で本県の幼稚園を取り巻く環境や現在地と課題も見えてきたように思います。

### 行政報告より

経常費補助単価、預かり保育、子育て支援、特別支援等各県の補助メニューが担当者より報告されました。詳細につきま

は別冊大会要項に記載されています。

文部科学省 幼児教育課長 藤岡謙一様には「幼保小架け橋プログラムとこども基本法」をテーマにご講演を頂きました。文科省職員として2人目となる中学校校長職(横浜市立旭中学校校長H26く28年度)を経験された氏の言葉には教育現場を知る説得力と迫力がありました。在任中、3000名の生徒の名前をすべて覚えた、とのエピソードが披露され称賛の声が上がりました。

### 研修Ⅰ「少子化はなぜ止まらないのかー新しい家族の創生とウェルビーイング向上を目指して」

(新潟大学・溝口由己教授) 溝口先生は2週間前の全国設置者・園長

副会長 池田清

研修大会(長崎大会)にも講師として本題で講演をされた、このことです。会社人間の夫と内助の妻という図式に象徴される現代家族は淋しい共生に帰し絶滅危惧種となっていく。働き方改革を通じた定時に帰る常識の社会への回帰。その改革の正しいベクトルの先に新しい家族の創生がある。そこが少子化からの脱却の起点となる。その鍵となるのが「時短」であるとのこと。 ■研修Ⅲ「親も子も幸せになる主体的・対話的教育とは」 (慶応義塾大学教授・前野隆司氏) 「地位財(金物・地位)⇨他者比較から得られる財がもたらす幸福感は長続きしない。他方、「非地位財」健康、安心安全や心の幸せから得られる、他者比較ではない幸せには持続性がある。幸せを作る4つの因子、

①やってみよう因子(主体性)

②ありがとう因子(つながりと感謝)

③なんとかなる因子(前向きと樂觀)

④ありのままに因子(自分軸)

主体的な人は幸せである。対話的とはつながりであり幸福感のカギとなる。そして深い学びとは成長意欲・学習意欲、向上心そのものである。よって「主体的・対話的で深い学び」には幸福感(Well-being)の基礎がすべて詰まっているとのこと。

少子化がもたらす園児減少の中で負の側面に目を奪われがちですが、「100人以上を当たり前とする保育環境が整備されかつ経営との両立が図られる西欧諸国の幼児教育に早く日本も習うべきである、そのための新たな仕組み作りが急務である」との全日私幼連会長、田中雅道先生の冒頭の挨拶が心に響きました。

「革」の視点から提言がありました。「ライフワークバランス」も、今後の社会には重要なことだと思われ知らされる講演でした。分科会については「認定こども園委員会」に参加しました。これからの園経営に必要なものとして「パーパス」社会の中でどのような存在となるかを考えることが、これからの園経営・認定こども園の役割を考える上で重要なことだという提案でした。研修大会全体として、少子化と変わりゆく社会の中で、子どもたちにとって大切なこと、働く先生たちにとって大切なこと、そして、地域のことも考えながら活動していくことを学びました。



信頼することは自分の自尊心や自己肯定感を育むことに繋がります。それはさらにこの地球上に『私自身に代わる存在はいないかけがえのない大切な存在である』と感じることもなります。そのことを自覚している満たされた人からかけられた言葉は小さな子どもにも素直にしっかり届くのです。そのため、まずは自分自身をしつかり知り、褒め、慈しむということ、私が今あるのは私の親やその親またその親…と何代にも渡り、ご先祖様たちが必死に生き抜いて繋げてくれたおかげであると感謝を忘れず、今を懸命に生きることの大切さを改め

て実感する素晴らしいお話でした。木村先生はお話の中で何度も「今を楽しんで」ということをおっしゃっていました。「私なんか…」と言っていたら楽しむのも楽しめません。しっかりと自分を褒めて心から「今を楽しむ」ようにしていきたいと思っています。今回、このような素晴らしい講演を伺う機会に恵まれましたことを感謝しますとともに、皆様の今後のお役に少しでも立てれば幸いです。

(文責)父母の会連合会副会長 塩見郁美

落ち葉も舞い散る季節となって参りました。今年度はYouTubeによるアーカイブ配信に加え、実に3年ぶりに対面で大会を開催することができました。当日はあいにくの雨もようでしたが、会場となった県立音楽堂には、県内全域から大変多くの皆様にお集まりいただきました。開会式では、はじめに父母の会連合会・寺尾康子会長、神奈川県私立幼稚園連合会・木元茂会長より挨拶があり、続いてご来賓の方々を代表して、神奈川県知事代理副知事・首藤健治様、神奈川県議会議員・しきだ博昭様、神奈川県私立学校審議会会長・牧島功様の3名の方に心温まるご挨拶を頂き、私たちの子育てにはたくさんの方々の

支援があるのだということを変更して感じました。その後の講演会では、ことのは語りとして、講演で全国を回り、朗読会にも力を注いでおられる木村まさ子先生にお話を頂きました。とても素敵な笑顔で穏やかな語り口調の木村先生のお話は聞いていてとても心地よく、自然に笑顔がこぼれ、時に涙を流しながら皆様熱心に耳を傾けておられました。今回のテーマを聞いたときに、木村先生はいつもご自身が大切にしていることが繋がっている！というふうにご確信し、話をしようと考えたそうです。その大切なこととは、『自分のことをいかに慈しみ、愛してい

令和4年 神奈川県私立幼稚園父母の会連合会 研修大会



こどもの心に響くことば掛け

ことのは語り 木村 まさ子 氏

令和4年11月15日(火) | 9:30~ 受付 開演 10:00~  
神奈川県立音楽堂

るか?つまり自己肯定感や自尊心が私たちが親の中に構築されているか、ということだそうなんです。人は周りにいる他人と常に『比較』して生きています。その比較をしているうちに「わたしなんか…」、「どうせ…」とだんだんと「けなし癖」がついてきてしまいます。我が子に対しても無意識のうちに周りの子どもと比べて、「他の子はできているのに、あなたはなんでできないの」などの言葉をかけてしまっているのではないのでしょうか。もちろん私たち親もさらにその親から同じような言葉をかけられていたかもしれません。そのうちに『けなし癖』のオブラートが何層にも重なり、誰もが持っているその人らしさ、『本質』を隠してしまっているというのです。では、その分厚くなったオブラートを外し、自分の本当の感情や本質を表に出すにはどうすればいいのでしょうか。それは、『自分を褒める・きちんと労う』ことだそうです。私たちの身体は細胞できているんです。その細胞ひとつひとつには核や意識があり、その細胞の核や意識が一番言うことを聞くのは『自分の声で発した言葉』自己命令』なのだそうなんです。なので、自分の声を発して、きちんと自分を褒めることがとても大切です。また、現在は量子力学の発展により目に見えない『言葉』も数値として表すことができるようになりました。波動計という機械で言葉のもつ『波動数』を知ることが出来ます。『褒め言葉』は総じて波動数が高く、逆に不平や不満、愚痴や



絵本贈呈のお知らせ

一般社団法人神奈川県自動車整備振興会様より絵本「ありがとう くるまのおいしゃさん」を贈呈いただき、会長の市川英治様より木元茂・県連会長への贈呈式が令和4年11月22日ようちえん会館にて執り行われました。全加盟園に各2冊お送りいただきました。



泣き言などは波動数がとても低いようです。波動数の高い言葉『褒める言葉、感謝の言葉』を自分の声で『自己命令』していくことで、『本質』の輝きを取り戻し、満たされていくようになります。言い換えると『自分を認める』ということなんです。『自分を認める』ことができていない人からのことは、特に小さい子どもの心には響きません。自分の心がしっかりと満たされて、優しい気持ちであふれている人のことばは必然的に相手にしっかりと受け止められ、伝わるそうです。子どもというのは大人の顔を見抜きます。こんなエピソードをお話くださいました。ある保育園の先生が、生活の中では、大変な悩みを抱えている中、園の中では笑顔で子どもとしっかりと向き合おうと頑張っていたそうです。その先生がある園児を笑顔で褒めた時、その園児に「無理すんなよ」と言葉を返されたというのです。その園児は先生の心が満たされたというのです。その園児は先生が褒めた時、褒め言葉を言葉通り受け止めなかったのです。自分をたくさん褒めること、認めること、

ようこそ連合会へ **Welcome** 新規加盟園情報  
一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会  
**学校法人大野学園 大野文化幼稚園**  
〒252-0331 相模原市南区大野台5-1-11  
TEL. 042-756-1218 FAX. 042-752-5556  
【設置者・代表者・園長】石川 柚美子  
【創立年月日】1974年2月

**NEW** 新規賛助会員  
**株式会社栄和テクノ**  
取扱：ケーブル配線用品加工販売、衛生関連機器販売、内装・外装の塗装および修繕、遊具修繕  
〒211-0042 神奈川県川崎市中原区下新城3-10-22-1F Tel. 044-863-8464

**千株式会社**  
取扱：園業務支援システム、インターネット写真販売、アルバム制作  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-3-2 経団連会館13F Tel. 03-6266-6661

**賛助会員を広く募集します**  
加盟園の皆様からのご紹介をお待ちしています。ぜひ県連事務局へご連絡下さい。

プレゼンテーション Presentation  
**運営委員会でサービスをご紹介いただきました!**  
9月7日 **中越クリーンサービス(株)**  
AEDのレンタル・販売 他  
10月11日 **株式会社みつばコミュニティ**  
送迎バス運行管理業、損害保険代理店事業  
11月11日 **株式会社ワイイーシーソリューションズ**  
午睡の見守りセンサーや体温管理システムの販売



**Jacpa**

■園内での正課・課外教室運営  
**体育・サッカー  
 新体操・チア・剣道  
 キッズダンス・英会話**

個性と魅力あふれる園づくり  
 を全力で応援します

株式会社ジャクパ  
 横浜支部・湘南支部  
 TEL : 045-312-2831

50th ANNIVERSARY  
 おかげさまで創業50年



**JAKUETS**

株式会社ジャクエツ 横浜店  
 神奈川県横浜市神奈川区片倉2丁目22-1  
 TEL 045-481-7221 FAX 045-481-7222

**園児の安全と保護者、保育士の安心を確保**  
**遊具事故を未然に防ぐ安全点検**  
 (劣化点検+規準点検)

【施設管理支援企業】  
**株式会社 シンテン**  
 http://www.shinten.co.jp/  
 03-5904-8912

国土交通省認定の**遊具点検資格保有者**による  
**点検作業および修繕コンサルティング**  
 実績 首都圏69自治体(公園・学校・保育園)および  
 100超の民間企業(保育園、幼稚園、指定管理者)

2021年10月 A市の認可保育園で2歳園児17人を保育士3人で見守っている中、遊具にあつた14cmの隙間に園児の首が引っかかり死亡する悲しい事故が起きてしまいました。遊具専門外の業者を使って柵を設置したことによって出来てしまった遊具規準不適合箇所での事故でした。

遊具・体育器具の点検・修繕

見積無料! お気軽にお問合せください

**送迎バスに関するお困り事  
 当社がすべて解決いたします!**

**誰ひのきリライアンス**

- 運行管理のプロによる手厚いサポートが欲しい
- 委託したいがシステムや費用が気になる
- コストの見直しをしたい
- 運行内容をより良く改善したい
- ドライバーの質を良くしていきたい
- 現在のドライバーが欠員したら...

自家用自動車運行管理業・株式会社誰ひのきリライアンスは「柔軟なご対応」「緻密かつ迅速な管理」「未永く愛される」をモットーに、運転手の採用、事故対応、車両故障等、運行に係わる全てのご対応を一括管理。東京・神奈川・千葉・埼玉・静岡エリアで運行管理サービスをご提供しております。

〒231-0015 横浜市中区尾上町2-8-11YSビル602  
**TEL:045-263-8217 FAX:045-263-8277**  
 ご相談や御見積はこちらからお気軽にお問い合わせください。

**祝 Pride of KANAGAWA**

**令和4年度神奈川県私立学校教育功労者表彰**  
 令和4年11月18日に、神奈川県庁本庁舎「正庁」において令和4年度神奈川県私立学校教育功労者表彰の表彰式が行われました。心よりお祝い申し上げます。



学校法人近藤学園 名瀬幼稚園 理事長・園長 **近藤 康弘** 先生  
 学校法人山田学園 相武幼稚園 園長 **山田 静栄** 先生  
 学校法人平山学園 菅幼稚園 園長 **平山 方夫** 先生

近藤康弘先生 木元 茂会長 山田静栄先生 平山方夫先生

**神奈川県私立学校教育功労者表彰**  
 私立学校教育の振興を図るため、知事所轄の私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた方に贈られます。

**瑞宝双光章**  
 今年も嬉しいお知らせがありました。心よりお祝い申し上げます。

学校法人 心宝学園  
 谷口幼稚園 理事長・園長 **澁谷 武男** 先生

**瑞宝双光章**  
 国および地方公共団体の公務又は公共に対し、長年にわたり従事し功労を積み重ね、成績を挙げた方に贈られる。

**令和4年度 神奈川県連合会加盟園数・園児数**

協会名	園数	園児数	前年度園児数	前年度比
公益社団法人横浜市幼稚園協会	249	37,849	41,084	- 3,235
公益社団法人川崎市幼稚園協会	83	15,753	17,495	- 1,742
横須賀市私立幼稚園・認定こども園協会	30	3,520	3,880	- 360
特定非営利活動法人藤沢市私立幼稚園協会	29	5,017	5,389	- 372
鎌倉私立幼稚園協会	19	2,388	2,507	- 119
茅ヶ崎市私立幼稚園協会	14	2,531	2,621	- 90
湘東地区私立幼稚園協会	40	5,795	6,060	- 265
小田原私立幼稚園協会	12	1,195	1,225	- 30
相和私立幼稚園協会	27	4,233	4,534	- 301
一般社団法人相模原市幼稚園・認定こども園協会	45	7,061	7,249	- 188
逗葉私立幼稚園協会	6	605	629	- 24
厚木地区私立幼稚園協会	19	2,651	2,820	- 169
計	573	88,598	95,493	- 6,895

県連設立 1948年(昭和23年)

**委託給食**  
 公立学校給食 / 保育園・幼稚園給食  
 病院・高齢者福祉施設給食等

**仕出し弁当**  
 幼稚園・保育園弁当 / 公立学校スクールランチ  
 オフィス・工場弁当

**飲料水 宅配**

**プロパンガス販売**  
 給湯器設置・施工  
 キッチン・バスリフォーム  
 消火器 / 床暖房の設置・施工

「本気」でいろいろやる会社 /  
 株式会社 **安田物産** YASUDA Co., Ltd.  
 〒242-0018 神奈川県大和市深見西2-6-28  
 TEL 046-261-9700  
 HP http://www.yasuda-bussan.co.jp